

2018年（平成30年） 9月28日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

9/13~9/19のNYMEX・WTIは、68.59~71.12ドルの範囲で推移した。

9月20日は、OPEC 諸国は今すぐ原油価格を引き下げるべきだとするトランプ大統領のツイッターを受けて、23日のOPEC・非OPEC合同閣僚級監視委員会を前に様子見ムードが高まり、持ち高調整の売りもあって、3日ぶりに反落した。10月限終値は前日比0.32ドル安の70.80ドルだった。

週末21日は、OPEC・非OPEC会合を前に、増産を巡る思惑から売買が交錯したが、増産合意見送りの観測から反発した。ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数866基（前週比1基減）の報告の影響は限定的だった。この日から中心限月となった11月限終値は前日比0.46ドル高の70.78ドル。

週明け24日は、23日にアルジェでOPEC・非OPEC20カ国が参加して開催された拡大合同閣僚級監視委員会で、市場には十分な原油が供給されているとして増産が見送られたこと、さらにドル安進行で原油先物に割安感が出たこともあって続伸した。11月限終値は前週末比1.30ドル高の72.08ドル。

25日は、前日の流れを受けて、世界的な原油ひっ迫感が高まり、3営業日続伸した。この日、トランプ大統領は国連総会で演説し、OPECは原油価格を吊り上げていると批判した。11月限終値は前日比0.20ドル高の72.28ドル。

26日は、EIAの米国在庫週報で原油とガソリンの積み増しが報告され需給緩和感から、4営業日ぶりに反落した。11月限終値は前日比0.71ドル安の71.57ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（11月渡し）は、前週75.70~77.40ドルの範囲で推移した。9月20日77.60ドル、21日76.90ドル、25日79.40ドル、26日79.60ドルで推移した。

為替は、前週111.43~112.30円の範囲で推移した。9月20日112.38円、21日112.61円、25日113.02円、26日112.93円で推移した。

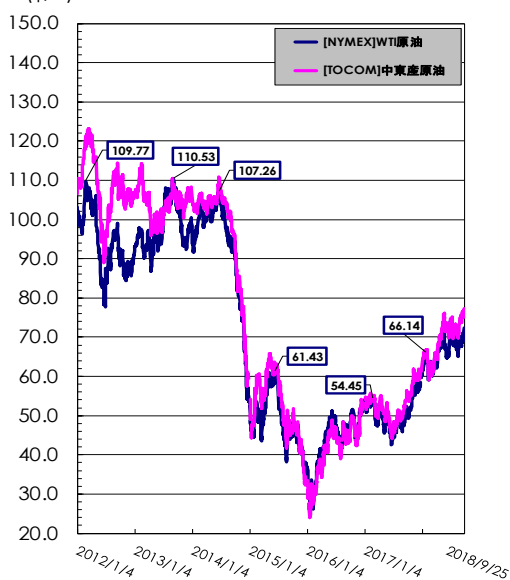
財務省が27日発表した貿易統計（速報・旬間）によると、9月上旬の原油輸入平均CIF価格は、52,978円/klで、前旬比453円安、ドル建てでは76.05ドルで前旬比0.50ドル安。為替レートは1ドル/110.74円だった。

主要元売会社の9月第4週に適用する卸価格は、全社・全油種とも、1.0円の値上げとなった。原油価格は値上がりし為替レートも円高で原油調達コストは値上がりとなった。

そのような中で、9月25日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.6円の値上がり、軽油が同0.5円の値上がり、灯油は同8円の値上がり（18%ベース）だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、4週連続の値上がりだった。この週（9月第3週）の原油コストはほぼ横ばいで、元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/16 ~ 9/22	3,411 ▲63	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.1 ▲1.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	9/22	12,295 ▼758	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	9/25	77.39 ▲2.50	▲23.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	9/24	72.08 ▲3.17	▲19.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月上旬	76.05 ▼0.50	▲24.54
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	52,978 ▼453	▲17,505
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.74 ▲0.23	▼-1.26
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/25	114.02 ▼-1.19	▼-0.49

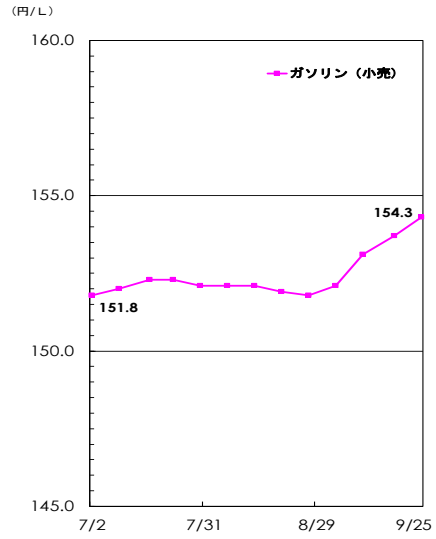
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/16 ~ 9/22	918 ▼ -149	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	898 ▲ 83	▼ -	
	輸出	"	85 ▼ -56	▲ -	
	在庫	9/22	1,600 ▼ -66	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/18 ~ 9/24	69.6 ▲ 0.4	▲ 17.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/18 ~ 9/24	69.6 ▲ 0.9	▲ 16.8
		(TOCOM/中部)	9/21	67.3 ▼ -2.0	▲ 14.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/25	154.3 ▲ 0.6	▲ 22.0	

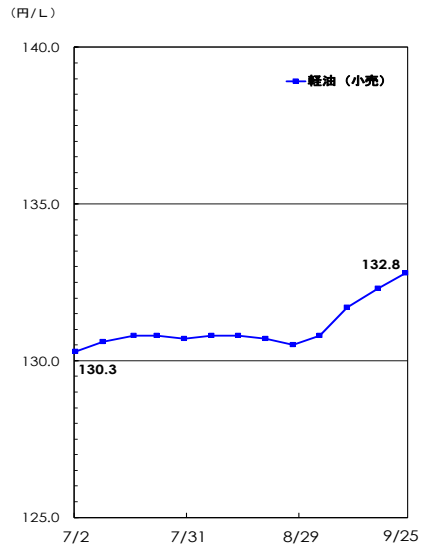
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

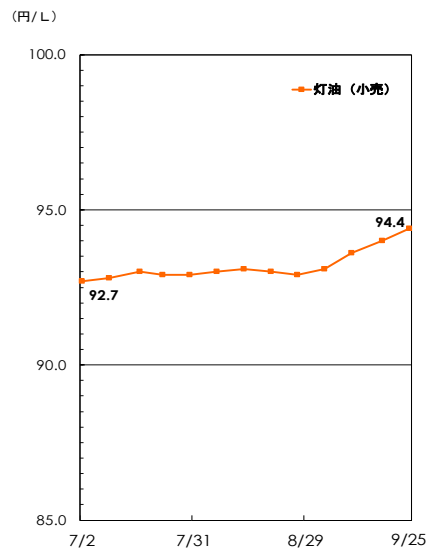
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/16 ~ 9/22	799 ▼ -16	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	630 ▲ 6	▲ -	
	輸出	"	192 ▼ -2	▲ -	
	在庫	9/22	1,553 ▼ -23	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/18 ~ 9/24	71.1 ▲ 0.6	▲ 21.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/18 ~ 9/24	71.3 ▲ 1.8	▲ 22.3
		(TOCOM/中部)	9/21	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/25	132.8 ▲ 0.5	▲ 21.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/16 ~ 9/22	194 ▼ -24	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	148 ▲ 22	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	9/22	2,495 ▲ 45	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/18 ~ 9/24	71.2 ▲ 0.9	▲ 20.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/18 ~ 9/24	71.5 ▲ 0.5	▲ 19.3
		(TOCOM/中部)	9/21	72.0 ▲ 0.5	▲ 18.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/25	94.4 ▲ 0.4	▲ 18.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月26日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫が市場予想(前週比130万バレル減)に反し同190万バレル増加、ガソリン在庫も市場予想(同80万バレル増)を上回る同190万バレル増加と、米国国内需給の緩和感から、4営業日ぶりに反落した。米国連邦準備制度理事会(FRB)は利上げを決定したが、折込済みとの受け止め方から大きな影響はなかった。11月限終値は前日比0.71ドル安の71.57ドル、12月限の終値は前日比0.69ドル安の71.41ドルだった。

EIAによると、9月24日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.3セント値上がりの1ガロン2.844ドル(85.3円/ℓ)、ディーゼルは前週比0.3セント値上がりの3.271ドル(98.1円/ℓ)となった。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは5週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年9月16日～9月22日に休止したトッパー能力は29.1万バレル/日で、前週に対して0.9万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は341.1万klと、前週に比べ6.3万kl増加。前年に対しては15.3万klの減少。トッパー稼働率は87.1%と前週に対して1.6ポイントの増加、前年に対しては3.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/13.9%減、ジェット/0.8%増、灯油/11.0%減、軽油/1.9%減、A重油/2.5%増、C重油/0.1%減。今週のC重油の輸入は2.4万kl(前週比1.8万kl減)。軽油の輸出は19.2万kl(前週比0.2万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、A重油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、ジェット、灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は89.8万 kl(対前週10.2%増)と前週比で3週振り増加となり、3週連続で100万klを下回った。ジェット9.2万

kl(対前週46.4%減)、灯油14.8万kl(対前週17.3%増)、軽油63.0万kl(対前週1.0%増)、A重油19.5万kl(対前週5.3%減)、C重油21.7万kl(対前週13.3%減)。

(単位:千KL)

	今週 (9/16 ~ 9/22)	前週 (9/9 ~ 9/15)	前週比	
ガソリン	898	815	▲ 83	(10%)
ジェット燃料	92	172	▼ -80	(-47%)
灯油	148	126	▲ 22	(17%)
軽油	630	624	▲ 6	(1%)
A重油	195	206	▼ -11	(-5%)
C重油	217	250	▼ -33	(-13%)
合計	2,180	2,193	▼ -13	(-1%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月22日時点の在庫は、ガソリン、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは160.0万kl、前週差6.6万kl減。前年に対しては10.4万kl少ない。

灯油は249.5万kl、前週差4.5万kl増。前年に対しては4.8万kl多い。

軽油は155.3万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては2.5万kl多い。

A重油は71.1万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては4.5万kl少ない。

C重油は212.9万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては0.2万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (9/22)	前週 (9/15)	前週比	
ガソリン	1,600	1,666	▼ -66	(-4%)
ジェット燃料	1,038	1,001	▲ 37	(4%)
灯油	2,495	2,450	▲ 45	(2%)
軽油	1,553	1,576	▼ -23	(-1%)
A重油	711	708	▲ 3	(0%)
C重油	2,129	2,121	▲ 8	(0%)
合計	9,526	9,522	▲ 4	(0.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月18日から9月24日の原油価格は前週対比でわずかに値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン123円台で値上がり、軽油70～71円台で値上がり、灯油70～71円台で値上がり後横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン125～126円台で

値上がり、軽油72～73円台で大きく値上がり、灯油70～72円台で大きく値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン122～124円台で大きく値上がり後反落、軽油70～72円台で大きく値上がり、灯油70～71円台で値上がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0～1.5円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、全油種・全取引で、値上がりした。油種としては軽油の値上がりが大きく、取引としては海上の値上がりが大きかった。

10月第1週(9月27日～10月3日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(9月18日～9月24日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油も0.6円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.3円の値上がり、灯油も0.2円の値上がり、軽油も2.2円の値上がりだった。

先物価格は、ガソリンが0.9円の値上がり、灯油も0.5円の値上がり、軽油も1.8円の値上がりだった。

原油価格はわずかに値上がりし、為替も円安で、原油コストは値上がりした。

10月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0～1.5円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (9/18～9/24)	前週 (9/11～9/17)	前週比
レギュラー	69.6	69.2	▲ 0.4
灯油	71.2	70.3	▲ 0.9
軽油	71.1	70.5	▲ 0.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値][平均]	今週 (9/18～9/24)	前週 (9/11～9/17)	前週比
レギュラー	69.6	68.7	▲ 0.9
灯油	71.5	71.0	▲ 0.5
軽油	71.3	69.5	▲ 1.8

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/18～9/24実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.4	▲ 0.9	▲ 0.6
灯油	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 0.7
軽油	▲ 0.6	▲ 1.8	▲ 1.2
A重油	▲ 0.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円高の154.3円、軽油も同0.5円高の132.8円、灯油は同0.4円高の94.4円(18%ベースでは8円高の1,700円)だった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油も4週連続の値上がり、ガソリンは3年9ヶ月ぶりの高値水準、5月28日以来18週連続で150円を上回った。都道府県別に、ガソリンの値上がりは41都道府県、横ばいは2県、値下がり4府県であった。全国最安値は、埼玉県の149.7円(前週比0.3円高)、次が、徳島県の150.3円(前週比1.0円高)、最高値は長崎県の163.2円(同0.5円高)。最も値上がりしたのは、2.8円高の北海道(154.8円)、最も値下がりしたのは0.2円安

の神奈川県(151.6円)で、横ばいは、愛知県、奈良県の2県だった。

先週の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社1.0～1.5円の値上げとなった。今週の原油価格はわずかに値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりした。次週(10月1日)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (9/25)	前週 (9/18)	前週比	直近高値
レギュラー	154.3	153.7	▲ 0.6	08/8/4 185.1
灯油	94.4	94.0	▲ 0.4	08/8/11 132.1
軽油	132.8	132.3	▲ 0.5	08/8/4 167.4

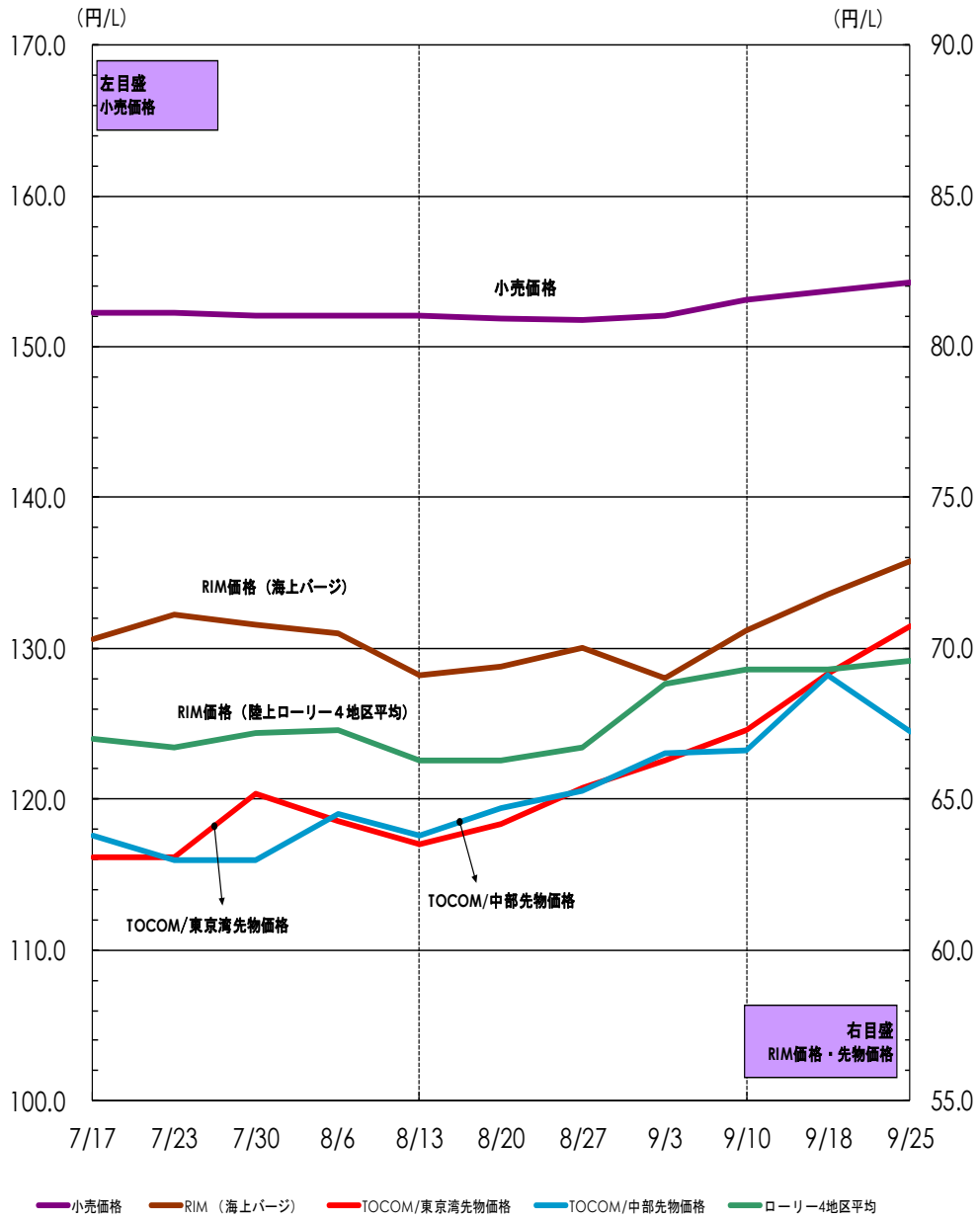
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/7/17 ~ 2018/9/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2018第25号) の公表は、10/5 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在) は、7月31日 (火) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate: 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。